

進路かわら版

進路指導だより

日田林工高等学校
進路指導室
平成29年
6月12日号

進路指導室からの大切なお願い

これからの時期、進路指導室には多くの企業・学校の関係者が訪れます。生徒の皆さんには平素からお願いしていることですが、来校者に与える林工のイメージを常に意識してほしいと思います。特に、進路指導室周辺の通行や会話には十分注意しましょう。なぜこのような注意を再三行っているのか、もう一度考えてみましょう。

① 来校者は学校の様子を観察することができます

企業から来校する人の目的は、求人に関する方針や見通し、採用条件、求める人物像など多くの情報交換を学校と行うことです。加えて、学校の雰囲気や様子を担当者が理解する絶好の機会でもあります。面談中に聞こえてくる生徒の会話や挨拶の声もその一つです。このことを皆さんはまず認識してください。

② さわやかなあいさつと清掃の行き届いた校舎

林工生は「あいさつと清掃が良くできる」との評判をいただけてきました。面談中に聞こえるあいさつの声は好印象です。また、校舎内の行き届いた清掃状況を校内の移動中に見てもらおうのは林工に良い印象を持ってもらう絶好のチャンスです。

③ マイナスの場面とは？

学校ですから休み時間・授業中の声や様々な生活音が聞こえてくるのは当たり前のことです。しかし、面談中に時々はずかしくなることがあります。それは、進路指導室近辺での奇声や大声、口笛、歌声などです。

では、なぜマイナスなのかを考えてみましょう。

④ 生徒の進路意識が低いと見られる

進路指導室は進路に関する窓口であり来客も多いということは、生徒全員が知っていることです。進路指導室のそばで大声や奇声を発するということは、進路指導室の存在やそのお客さんを意識していないということになります。したがって、そのような学校の生徒は進路に対する意識が低いと理解されてしまうのです。

⑤ 安全教育のレベルに疑問も

本校はものづくりに関わる専門高校です。その切り口から考えてみましょう。専門高校における安全教育は何よりも大切な取り組みです。ものづくり等の作業現場で大きな声を出すのは、危険を知らせる緊急の場合や必要な情報伝達の場合だけです。仕事場で必要もないのに大きな声を出している場面を見たことはありません。ましてや歌ったり口笛を吹いたりすることはあり得ないことです。ですから、不必要なときに大きな声を出さないことは安全教育の一つなのです。不適切な場所で異様な奇声を発したりする生徒がいて、安全教育が徹底されている学校と言えるでしょうか。

要するに、学校のキャリア教育や実習における安全指導が不十分だと見なされます。学校の質が問われるので、奇声が聞こえたら「はずかしい」と感じるのです。

⑥ よい評判づくりに一人ひとりが貢献しよう

林工のように「社会に一番近い学校」の「評判は命」です。3年生は目前の利得につながりますが、1, 2年生にとっても今の評判や3年生の実績がこれからの影響します。良い評判づくりに貢献して、3年生の活動を応援しましょう。

進路の活動は全校生徒、職員全員の総合力で取り組むものなのです。

コラム

げなばなし

「…らしい」とか「…だそうだ」と言うのを、日田弁では「…げな」と言います。うわさ話をするときによく使う言葉で、日田では日常会話でもよく耳にします。今回はこの「げなばなし」に関する話です。

うわさ話の広がりや驚くほど早く、人から人へと「…げな」というように伝わっていきます。良いうわさも、悪いうわさもたくさんの人に素早く広まるので恐ろしいものです。加えて、話の内容はより大げさになっていくのが通常なのでくれぐれも心得ておきたいと思います。

さて、林工の評判もこの「げなばなし」でまわりに伝わっています。一人が見聞きした良い印象は広い範囲に驚くほどのスピードで広がり、林工の良いイメージとして定着していきます。逆の印象も同様です。たった一人の善行やマナー違反が林工全体の評判になるという理屈はこういうことです。

林工生一人ひとりが良い評判づくりに大きく貢献できるということを意識して、良い「げなばなし」が広がるようにできたらと願っています。

希望進路の達成は
情報収集から

ご意見・ご相談、お問い合わせは、
日田林工高校進路指導室
TEL : 0973-22-5171 (代表)
0973-28-5621 (進路直通)